

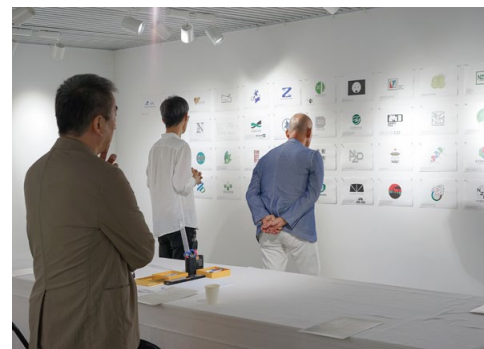
名古屋造形同窓会 ブランドシンボル募集 入賞作品

名古屋造形同窓会ブランドシンボル募集企画では、在校生25名および卒業生42名、全67名の世代を超えた同窓生の方々に作品を応募いただきました。

厳正なる審査の結果、7点の入賞作品が決定しましたのでご報告いたします。

審査日 2025年8月24日
ZONE GALLERYに於いて

審査員 伊藤 豊嗣（名古屋造形大学学長）
足立ゆうじ（名古屋造形大学教授）
森 欧揮（名古屋造形大学同窓会会長）
倉地 孝幸（名古屋造形大学同窓会）



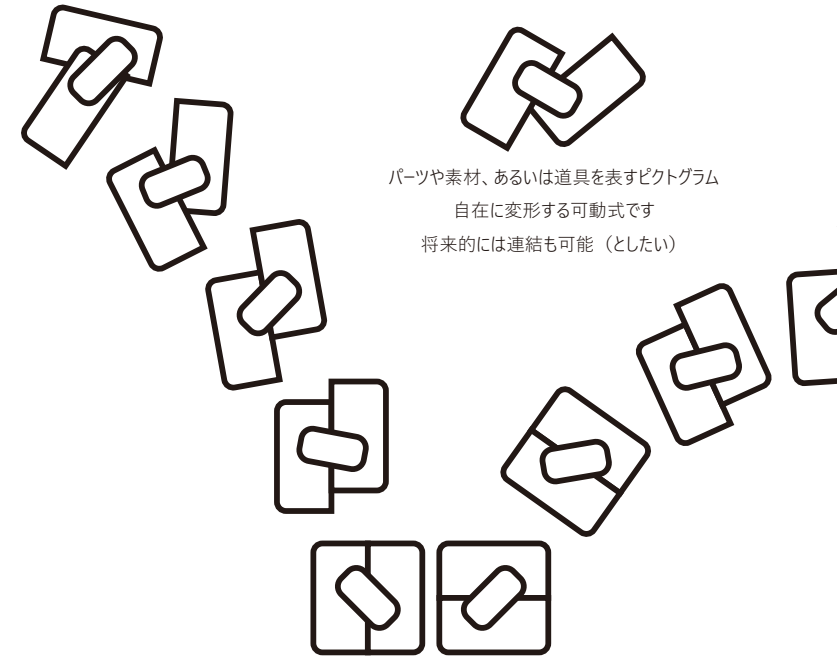
審査員コメント

今回名古屋造形大学の「同窓会シンボル」として使われる上でそれにふさわしい形、造形の歴史とその時代とともに歩んできた卒業生の集合体である同窓会として「継続的な展開表現と、ユニークかつコミュニケーション上も最適解な表現」を中心に評価し選びました。

大賞 (採用)



NAGOYA ZOKEI DOSOKAI



パーツや素材、あるいは道具を表すピクトグラム
自在に変形する可動式です
将来的には連結も可能 (としたい)

岩下 貴行

名古屋造形芸術短期大学
プロダクトデザイン
1991年卒

NとZが、コンセプトである「造形」の共なる命や「共鳴と共感」を表現しており、遊具のようなフレキシブルな動きで展開し、歩み続ける可変的な継続性を表わしていて、「同窓会」への誘導として面白い。「ものづくり」の人が集まった大学とつながり続ける同窓会だと解るロゴマークに仕上がっている。

優秀賞



名古屋造形同窓会
NAGOYA ZOKEI DOSOKAI

斉藤 公平

名古屋造形芸術大学
美術Ⅱ類
1995年卒

在校生・同窓生のつながりを表現した「船と帆」のようなコンセプトから展開されるアイデアの面白さ、それを円の中に自由な図形として配したオリジナリティがよい。



伊藤 翔太

名古屋造形大学
グラフィックデザイン
2016年卒

造形の同窓会ロゴとして、イニシャルNとDで構成するシンプルで美しいライン(線)のわかりやすい構成がよい。「文化や伝統、理念を継承」というコンセプトも同窓会として共感できた。

奨励賞（審査員賞）



山口 直澄
名古屋造形芸術短期大学
ビジュアルデザイン
1995年卒

建物に旗が立っているような形はNZDの文字で構成されており、卒業生に発信している同窓会を象徴するロゴとしてのアイデアを評価しました。（伊藤 豊嗣 選）



向山 和音
名古屋造形大学
造形学部 情報表現領域 3年
在校生

シンプルながら「描く」と「書く」を端的に伝え、ものづくりの人達が集った同窓会をうまく表現していると感じた点を評価しました。（足立 ゆうじ 選）



高井 睦子
名古屋造形大学
造形学部 情報表現領域 3年
在校生

専門的には造形大のブランドロゴを分解する表現は使用禁止例ですが、母校で学び育ち未来に繋がる想いをD（同窓会）オーバルに込めて素直に表現していることに共感しました。（倉地 孝幸 選）



名古屋造形同窓会
NAGOYA ZOKEI DOSOKAI

富田 梨央奈
名古屋造形大学
造形学部 情報表現領域 3年
在校生

造形の歴史である（稲葉地・小牧・名城の3キャンパス）が「型にはまらない個性的な形」として集合体にうまく構成され、世代のつながりが共鳴している点を評価しました。（森 欧揮 選）